

平成 28 年度 まちづくり移動町長室（上町、中町、下町地区）

日 時 平成 28 年 6 月 18 日（土）10 時～12 時

場 所 二宮中学校体育館

参加者 28 名

ふるさと納税について	
参加者	何をするにも財源が大事だが、ふるさと納税の金額はいくらか。
町長	豪華すぎる特典品が社会的な問題にもなっているが、二宮町は地元の特産品などを特典としている。町にゆかりのある方々を中心に、大口の方も含めて全国各地から寄付をいただいている。まだ工夫の余地はあるかもしれない。
財務課長	参考までに具体的な数字をお知らせする。平成 27 年度実績では 400 万円強、100 件ほどであり、県内では多くない。引き続き努力したい。
参加者	ふるさと納税については状況が分かった。 先日、一色小学校区の取り組みや動画のことを新聞で知った。こういう広報活動がうまくいけば住みやすくなってくるので今後も頑張ってもらいたい。

定住促進について	
参加者	町内で事業をやっている町外在住の方で所得も見込めるような方には、二宮に住んでもらうよう町長から直接アプローチしてはどうか。
町長	公式には難しいが、個人事業者を含めた企業などに対しては誘致と捉えて移住してもらえるとありがたいと思う。住みやすさのPRや誘致することを考えていきたい。
参加者	定住促進の材料として、二宮中学校生徒の学力が優秀であることをアピールしていくのはどうか。
町長	全国学力・学習状況調査の結果を見ても、二宮は全体的に優秀であるので、子どもたちの活発な活動をPRしていきたい。

学校教育について	
参加者	小学校で英語教育をやっているが、英語の前に正しい美しい日本語が大切だと思うので、大事にしていきたい。
教育長	美しい言葉、洗練された言葉をずっと使い続けてもらいたい。人を傷つけないように自分の感情を表現する言葉はいくつもあることは国語教育などで教えているが、テレビなどの生活環境の影響には勝てない。家庭教育を含めてPTA活動などを通じて広く話をしていきたい。 また、小学 5 年生からの英語教育においても、きれいな日本語を使って訳すよ

	うに教えている。
--	----------

公共施設の統廃合について	
参加者	施設の統廃合をした後の活用はどう考えているか。袖が浦プールの今後の利用方法、町民活動サポートセンターの移転理由は何か。サポートセンターには町民活動に利用する際には紙を持ち込んだりすることが多く、重いので坂を上って町民センターまで行くことはなかなか難しい。もし移転させるのであれば、サポートセンター跡地は図書館の返却ポストへ活用してはどうか。
町長	<p>袖が浦プールは年間の維持費が 700 万円かかることや、駐車場がなく利用者が減少しているので休止とした。今後の利活用についてはほかの施設を含めて公共施設再配置・町有地有効活用等検討委員会で決めていく。またプールの手前は公園として位置づけられており、公園としてもっと活用するならその方針を出す必要があると思う。</p> <p>町民活動サポートセンターについては、駐車場のある町民センターに置くことで今まで駐車場がなく来づらかった方には便利になる。会議室も使用できるように確保する。</p> <p>図書返却ポストについては、回収するための人の手配の問題もあり実施していないが今後、検討していきたい。</p>

駅北口ロータリーについて	
参加者	駅北口ロータリーの一般車両進入禁止を知らずに入ってくる車を警察が取り締まっている。菜の花ウォッチングの時は、ボランティアが 2 人いて違反しないよう事前に知らせていた。
町長	縦、横に看板をつけたが、それでも進入車両がいるので道路にも表示をつけた。物理的な方法には限度があるので、いろんな媒体を利用して周知していきたい。
参加者	<p>仕事柄よく捕まっている様子を目にする。見やすくするには、「進入禁止」の道路標識を付けることである。公安委員会にお願いしてほしい。</p> <p>また、足の不自由な人がタクシーに乗るためには横断歩道を渡らなければいけない。スペースがないことは分かっているが、タクシーに限ってエレベーター前に止められるようにしていただきたい。</p> <p>これとは別に、最近、町の情報を新聞などで目にするが増えた。マスメディアへの PR が上手くなってきていると感じる。移住促進にもつながるので、引き続きよろしくお願したい。</p>
町長	<p>看板の設置は警察に聞いてみる。</p> <p>タクシーについては、すぐには対応できないが検討していく。</p>
都市部長	ロータリー出口に「進入禁止」、入口には指定方向外的一方通行表示があり、タ

	クシーやバスに限り進入可能になっている。 それ以前はロータリーの中を渡ってバス停へ行っており、車と人が交差して危険であったので一般車両進入禁止にした経緯がある。
--	---

地域包括ケアシステムについて	
参加者	地域包括ケアシステムによりどのように変わっていくのか。地域は何をしていくのか。分かりやすく説明してほしい。難しい話であるので、今回だけではなく、町内のいろいろな集まりの際に説明をしていってほしい。
地域包括ケアシステム担当課長	今後、高齢者が増え介護保険における要介護者が多くなることが想定される中で、制度を維持させるためには、高齢者を含め誰もが元気に暮らせる社会を形成する必要がある。これを実現させるために、国をあげて始めた制度が地域包括ケアシステムである。 まず各個人としては、「かかりつけ医を見つける」「健康に留意する」「財産について家族と話し合う」ということをしていただきたい。そして何かあったとき支え合える近所づきあいを心がけてほしい。 町は、要支援についてのサービスが町実施の事業になるにあたり移行がしっかりとできるようにするとともに、健康づくりや生活支援の活動をする民間団体の情報を集め、それをサポートできるシステムを作っていこうと考えている。 地域としては、話し合いの場として協議体を作って活動していただきたい。町全体での協議体と各地域での協議体を作るつもりであり、地区長連絡協議会の研究会でもその協議体の設置数などを検討いただいているところであるので、町の担当者も中へ入り話を進めたいと考えている。町域での協議体は3月までに動き出せるようにしたい。地域での協議体についても、一色小学校区をモデル地域として何ができるかなどを決めて3月までに動きだしたい。 地域として、幸せに無理なく暮らしていくための地域の将来像について共通認識を持ってほしい。そこから地域の資源や課題を見つけ、話し合いができる場所、拠点を作っていただきたい。そしてその活動団体に新しい人を呼び込み、仲間づくりを進めていただきたい。
参加者	よく分かったので、今日だけでなく地域の方々に説明をしてほしい。

災害時の職員配置について	
参加者	この地区は地盤が強いことから災害に強いところであるため、住民の災害への意識が薄いと思う。災害時、町職員の配置を臨機応変に変えることを考えているか。
防災安全課長	災害時、広域避難所へ職員3名ずつ配備するようになっており、また通常の業務とは別に初動指針に従って職員を配置するようになっている。

ゴミの出し方について	
参加者	生ごみをそのまま袋に入れるため、カラスにごみを荒らされているが、それを知らない人がいる。他町では対策として燃えるごみの袋に名前を書いているという。ここまでやるにはプライバシーの問題があると思うので、ごみカレンダーにごみの出し方を書いてほしい。
町長	まずはごみカレンダーなどで広報・啓発していきたいと思う。
参加者	カラスについてはエサをあげる人が国道 1 号の東方面から来ている。地区として看板をつけようと思っている。今後の状況によっては役場へ相談したい。

介護老人保健施設について	
参加者	高齢者保健福祉計画や介護保険事業計画について、平成 29 年度から介護従事者を増やす、つまり施設を建てるという計画になっているようだが、その計画の進捗状況を伺いたい。
健康福祉 部長	老健施設 100 床分が必要であると計画には確かに盛り込んでいるが、実際に事業者の募集は行っていない。次期計画策定時に必要性の再確認を行いたい。
副町長	二宮町の場合 50 床あれば足りるということになっている。近隣町の施設に二宮町分の 50 床を確保している。これが平成 29 年度までの計画内容であり現状では足りている状況ある。時期がきたら見直す。
参加者	介護が必要で施設入所を待っている人が実際にいるのか。数は把握しているか。
地域包括 ケアシス テム担当 課長	介護老人保健施設の人数は把握していないが、参考に特別養護老人ホームでの待機は 120 人ある。
参加者	50 床で足りている計画と、特別養護老人ホームの待機者が 120 人いる現状で、恒道園は入所制限を続けている。この状況をどう思っているのか。また打開するためどう動いているのか。
町長	この問題に関しては県が指導する立場であり、町としても大磯町と一緒に県に対し働きかけをしている。働きかけ続けていくことが大事だと思う。途中経過に進展があれば報告する。
参加者	恒道園に関しては、施設が元の状態になるようにしてほしい。
町長	町としても県に働きかけ続けていく。